

船舶事故調査報告書

令和5年10月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和4年8月7日 17時20分ごろ
発生場所	神奈川県平塚市平塚漁港西方沖 平塚沖波浪観測塔灯から真方位044° 1,230m付近 (概位 北緯35° 18.8′ 東経139° 21.3′)
事故の概要	水上オートバイライフフィールド1号は、西進中、潜堤に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和4年9月28日、主管調査官（横浜事務所）を指名原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	水上オートバイ ライフフィールド1号、0.2トン
船舶番号、船舶所有者等	212-16580神奈川、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、特殊小型
負傷者	なし
損傷	船底外板に破口
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南西、風力 3、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の末期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者2人を乗せ、神奈川県藤沢市江の島周辺で遊走した後、平塚市にあるマリーナに向け、帰航を始めた。</p> <p>海図によれば、平塚漁港の西方700m～900m付近に、東西方向に長さ約200mの潜堤（堤体が水面下に没した消波構造物）記号が記載されている。</p> <p>船長は、平塚漁港西方沖を西進していたところ、船首方に潜堤があることを知らずに潜堤に向かって航行し、潜堤に乗り揚げて乗り切った。</p> <p>船長は、船底に軽く衝撃を感じたが、航行に支障はないと思い、そのまま西進を続け、主機を停止させて漂流を始めた際に本船が沈み掛けていることに気付き、のちに本船が転覆した際に船底外板に破口が生じていることに気付いた。</p> <p>本船は、後日、僚船によってマリーナまでえい航された。</p>
分析	<p>本船は、西進中、船長が、船首方に潜堤があることを知らずに潜堤に向かって航行したことから、潜堤に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>本船は、船底外板に破口が生じていたことから、乗り揚げたことにより船底外板に破口が生じ、のちに破口から浸水し、漂流した際に沈みかけたものと考えられる。</p>
原因	本事故は、本船が西進中、船長が、船首方に潜堤があることを知ら

	ずに潜堤に向かって航行したため、潜堤に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・水上オートバイの操縦者は、発航に先立ち、自身が航行する予定の海域について、海面下に障害物や浅所等がないか、海図等で調べ、障害物や浅所等の付近を航行しないこと。・水上オートバイの操縦者は、船底に衝撃を感じた場合、航行を中断して船底等を確認し、異常がないことを確認してから航行を再開すること。